

# 平成25年度予算見積調書

課室名：生徒指導課  
 担当名：非行・中退防止担当  
 内線：6744 (単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
B59	自分発見！高校生感動体験プログラム事業			一般会計	教育費	教育総務費	教育連絡調整費	非行防止対策費	
事業期間	平成18年度～平成28年度	根拠法令	なし	戦略項目		06	時代に応え未来を拓く人材育成		
				分野施策		020102	子どもたちの豊かな心の育成と非行防止・立ち直りの支援		
<b>1 事業の概要</b> 本県高等学校の中途退学率は全国的に高い水準にある。入学後の早い段階から対策を立てるため、中途退学率の高い学校の1年生に焦点を当てて中途退学率の減少を図っていく。 そこで、就労体験や社会貢献活動に取り組み、社会性やコミュニケーション力を身につけさせたり、自己有用感を高めたりすることで意義のある高校生活を送れるようにする。 (1) 就労体験活動 4,017千円 (2) 社会貢献活動 3,743千円				<b>5 事業説明</b> (1) 事業内容 ア 就労体験活動 地元企業、商店及びロータリークラブ等と連携して該当校8校の1年生全員が5日間の就労体験を行うことで、高校生活に意義を見出させる。 4,017千円 イ 社会貢献活動 被災地支援を学校単位で行う。地元自治会や小・中学校等と連携し、地域の清掃活動をはじめとしたボランティア活動を行う。該当校8校の1年生全員が年間で3回の活動を通して、他者との交流の中で社会性やコミュニケーション力を身につけながら、自己有用感を高める。 3,743千円 (2) 事業計画 ア 就労体験活動 プログラム事業推進担当教諭が中心となって進めていく。就労体験の受入事業所の開拓、事前・事後の指導の他、体験活動中は巡回指導を行い、生徒が高校生活の意義を見いだせるようきめ細かい指導を行うことで中途退学率の減少を図る。 イ 社会貢献活動 被災地支援をはじめ、地元自治会や小・中学校等と連携したボランティア活動を行う。ボランティア活動による他者との交流によって社会性やコミュニケーション力を身につけ、また、他者から感謝されることで自己有用感を高める体験活動とする。 (3) 事業効果 公立高校1年生の中途退学率及び中途退学者数を減少することができる。 平成23年度：3.1% (1,071人)→平成28年度：2.7% (1,000人以下) (目標) 中途退学者数 平成20年度：4.6%(1,672人) 平成21年度：4.2%(1,508人) 平成22年度：3.4%(1,261人) (4) 県民・民間活力、職員のマンパワーの活用、他団体との連携状況 地元企業や地元自治会、近隣の小・中学校との連携によって、効果の高い活動を実施する。 (5) その他 <b>【変更事項】</b> ステップアッププログラムから社会貢献活動へと内容を変更し、社会性やコミュニケーション力を身につけさせる。					
<b>2 事業主体及び負担区分</b> (県10/10)									
<b>3 地方財政措置の状況</b> なし									
<b>4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員</b> 9,500千円×0.6人=5,700千円									
				財 源 内 訳				一般財源	前年との対比
予算額									
決定額	7,760							7,760	△2,168
前年額	9,928							9,928	